

## 5. 実証研究で得られた成果

・学校運営協議会と共育コミュニティとの連携により、ボランティア活動で繋がる関係機関の数や地域貢献の機会が増えた（下表）。

	令和元年度に新たに連携できた機関名
1	あやの台小学校
2	高野口小学校
3	橋本小学校
4	橋本こども園
5	岸上子ども館
6	橋本地区公民館

・ボランティア活動に参加する生徒を本校の生徒会ボランティアセンターが取りまとめ、内容に応じて生徒を派遣することで、地域貢献の意識が生徒に一層浸透してきている（報告書の生徒感想文より）。

・生徒が地域で活躍する機会が多くなったことで、本校コミュニティ・スクールの特色が地域に広く理解されてきている。（報告冊子に掲載：本校が以前より警察や地域の方々と協力して実施しているマナーアップ運動があり、その流れで、本年度、橋本市より市内清掃活動「アダプト制度」の依頼があった。）

・生徒が地域に出る機会が増えたことに加えて、橋本市政策企画課と繋がりが持てたことで、生徒が橋本市の課題を具体的に認識するようになった。従来、日常生活やボランティア活動の中でなんとなく感じていた課題意識を、言語化して認識できるようになった。その結果、生徒は橋本市をより分析的に客観視できるようになった。

・橋本市の課題が明確になったことで、高校1年生の「総合的な探究の時間」で、生徒は橋本市に提言する具体的な施策をつくることを目標に思考した。その思考の過程は教科学習では得られない学びの過程であり、自己の在り方、生き方を考える契機となった。

・地域貢献に係る様々なボランティア活動を体験した生徒たちのアンケート結果や学習の成果物、また、学校での活動や生活態度をみると、「主体性」、「協調性」の伸長が見取れた（報告冊子掲載の生徒アンケートグラフより）。